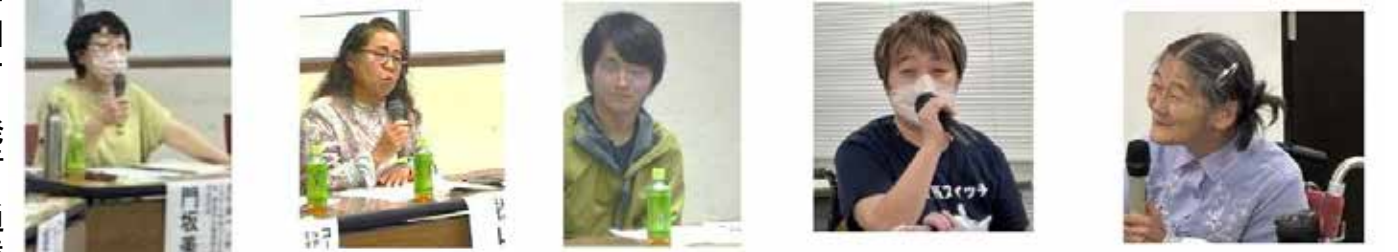


月刊 わらじ 12月号

特集 私の三大ニュース



11月22、23日に開催された第22回障害児を普通学校へ・全国連絡会 全国交流集会 in 埼玉の第4分科会「共に学ぶと共に働くの間を考える」の風景。

5人の報告者は、埼玉の連絡会や社団、ネットワークではおなじみの顔ぶれ5人。そして、この分科会の参加者は特に多く、障害当事者の割合が高かった。

門坂:普通学級にこだわって来て、最終的には社会に居場所を作って暮らしていけるようにとの願い。地域活動でバザーに協力してくれた会社の社長がうちへ来るかと。それから20年余り。

松山:高校卒業時、高校の教員ががんばってくれて、家の近くのセイコーの工場で働いた。300人位の半分程が障害者。同じ給料、皆ちゃんと働いてと。新しい上司が来た時は私が教えた。

前田:中学の時、連絡会と出会い、高校で学びさらに大学へ。バイト先で卒業後も働き続けている。先日上司に騙され退職届を書かされた。来年初め、新しい会社を受けてみるつもり。

森住:県教委の障害者枠の非常勤、応募したら中学の支援員に採用された。通常学級の障害生徒が修学旅行で、常時親と一緒にはおかしいと県交渉で話したら、退職届を書かされた。

日吉:小学校は養護学校で中学、高校と地域の学校へ行った。障害者枠で就職したが、仕事は干され、給料泥棒と言われた。「職場参加」は職場にまず入って行って、顔が見える関係になり、受け入れた方も、入って行く方も、お互いに何ができるのかなって、歩み寄りながら考えていく活動。

特別な雇用・就労の場が増えている中、職場・地域でのせめぎ合いを語る参加者達の言葉

「私も自分で生きていくとかわかってきたので」、「仕事はその人がやりたいことをやればいい」、「12年間市職員として働いたが体を壊してクビに。若い頃は就労幻想を抱きやすい」、「学校用務員さんの仕事を障害者雇用にさせたい。区役所ロビーの案内係もいい」、「ビル管理の仕事きついが人間関係はよい」、「自分の現場でもパワハラ、村八分がある」、「障害者と健常者を分けてきたので防災の話になるとわからないことが多い」、「7年間一緒に働いてやっと働きやすくなった」、「やっぱり街に生きるゼミ 準備中」、「一人暮らし又は彼女と暮らしたい」

小さな新聞 12月号
THE CHISANA SHIMBUN
第00571号(月曜) 430円(税込)

あそび
Boutique
小松

12月号

2025 今年の三大ニュース

①「たがし合えだ」
二月22・23日、障害児を普通学校へ・全国連絡会の全国交流集会「出会えないのはなぜ？」が岩槻で行われた。全分科会と4つの分科会に分けて行われた。第4分科会は、「共に学ぶと共に働くの間を考える」というテーマで行った。報告者は、門坂美恵、松山

美幸、前田海里、森住由香里、日吉幸子さん。障害者の親である門坂さん以外の4人は障害当事者。コーディネーターは、山下清志さん。卒業後いろいろな職場での差別や苦勞、働くということの意味、生活など豊富な体験をもとにした報告がされた。会場からも全国から参加した障害当事者か

ら、「働くことは生きること」、「就労幻想」、名古屋の大野さん・長岡さんから大学での「自主ゼミ」の立ち上げ予定など、経験や意見が次々に語られ、大いに盛り上がった。

②「コロナワクチン」
今年もコロナワクチンの定期接種を厚労省が呼び掛けている。219件。国が引き起こした史上最大の惨劇だが、厚労省は「重大な懸念はない」という立場を堅持している。

③「脳死移植」
今必要なのは、パンデミック感染症の際に起きたことを後学(公衆衛生)・臨床・経済・教育などいろんな分野を総合してきちんと検証することではないか。二月までの一年間で、脳死から臓器を摘出された人は16人。昨年より1人増加。病因は、低酸素脳症が6人、クモ膜下出血などを含み脳血管障害が6人、頭部外傷が2人など。6歳以下は7人。2010年改正移植法が施行されてからは、120人。このうち家族承諾は2人、本人意思表示ありは2人。

市(肺炎)入院。無事。田美恵子、村田玲子。一時、時間がかかって投票。谷市(足腰)麻痺の期日。前田美恵に。手話通訳も。某村子さん。無事。

谷市(足腰)麻痺の期日。前田美恵に。手話通訳も。某村子さん。無事。